



学会ニュース

No.6

稲田義久教授最終講義

この度、経済学部教授の稲田義久先生が今年度をもって定年退職されます。稲田教授は、本学の教育、研究に多大な貢献をされ、2014年〜2018年には甲南大学副学長として、ご尽力くださいました。

今回、ご退職にあたり、稲田義久教授最終講義を3月15日に行いました。

〜内容〜

最終講義では、稲田教授の学生時代のストーリーから研究活動の展開、そして、今後の経済動向の予測まで幅広くお話を頂きました。中でも、ノーベル経済学賞を受賞されたローレンス・クライン教授が考案した超短期予測を稲田教授は日本経済に適用させた頃のお話を拝聴しました。そこでは、より精度の高い良い予測モデルを開発しようとして30年以上も熱い情熱で研究に捧げていたことをお話しされました。

〜受講した方の感想〜

今回の最終講義を拝聴して、留学することに対して非常に興味が湧きました。また、稲田教授が研究していらつしやる超短期予測について、日常生活で頻繁に目にする天気予報と似ているとの説明があり、分かりやすく理解することが出来ました。超短期予測という名前だけ聞くと、どのような内容なのかイメージすることが難しいですが、経済学と日常生活を離れたものとして考えるのではなく、結びつけて考えることで、より理解が深まると感じました。

今後のご活躍をお祈りします



〜編集後記〜

今回は、稲田教授退職記念講演会についての記事を作成しました。至らない点もあつたかと思いますが、最後までお読みいただきありがとうございます。

次回も、イベントの様子を楽しくお届けできるように努めますので、あたたかく見守っていただけると嬉しく思います。

編集担当 増田悠花